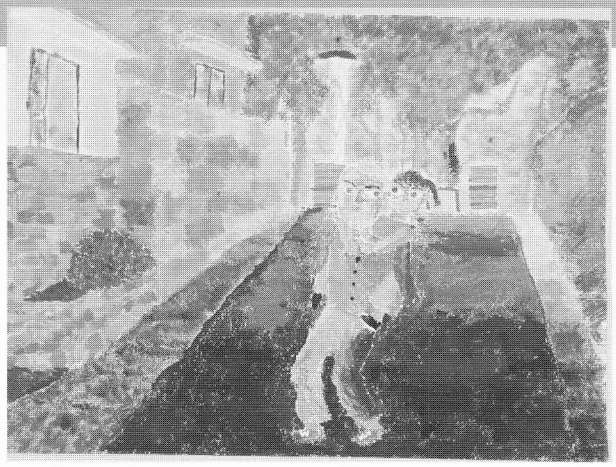
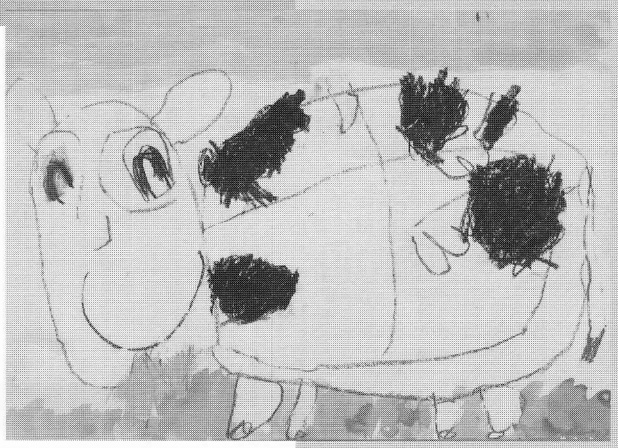
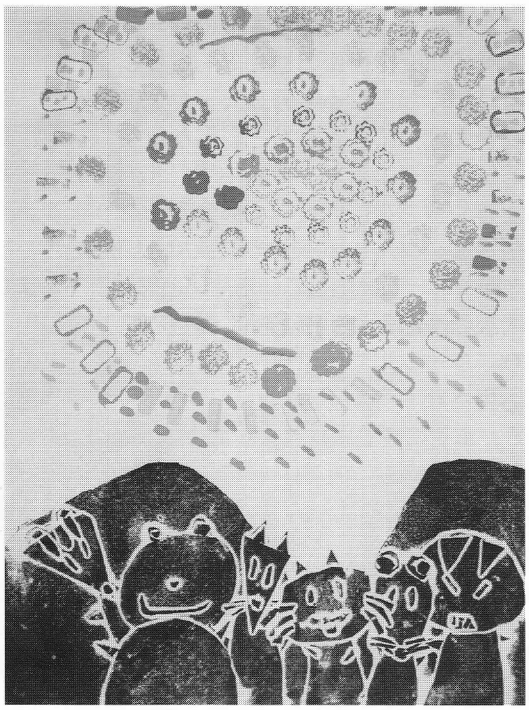


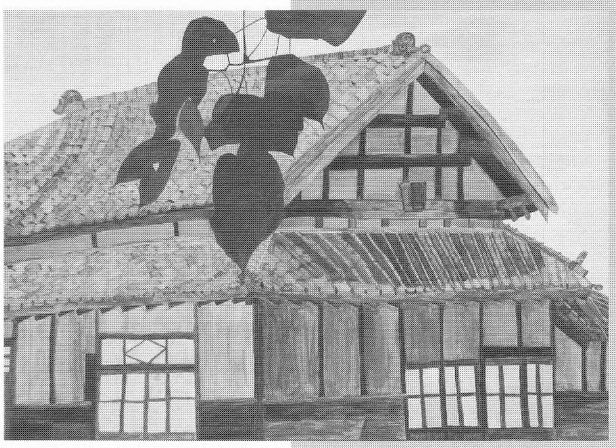
札幌市　厚別北中　2年「おじいちゃんが来た日」



札幌市　札幌創価幼稚園　「うし」



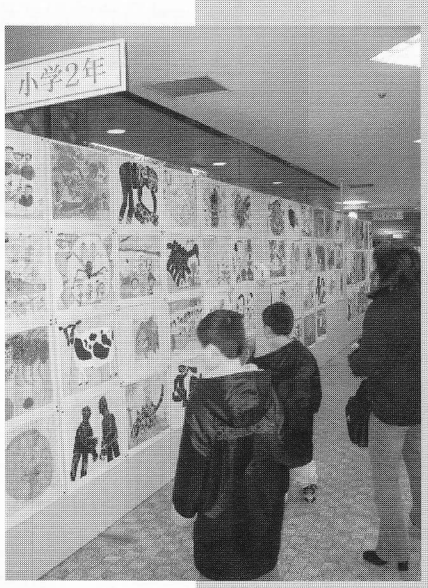
苫小牧　拓勇小　2年「動物たちの花火大会」



東川町　東川小　5年「明治の家」

もくじ

- 教育美術展奨励賞作品…… 1〈表紙〉
- 北海道造形教育連盟委員長挨拶… 2
- 研究の方向…… 3
- 旭川大会のご案内…… 4～5
- 教育美術展に向けて…… 6～7
- 地区サークル…… 8



第30回北海道教育美術展会場

北海道造形教育連盟報

No.118　2004.7.20発行

発行　北海道造形教育連盟
委員長　冨田　泰
事務局　札幌市立澄川西小学校　今　裕子
〒005-0002
札幌市南区澄川2条5丁目
TEL811-7785・FAX811-0326

求められる造形教育をめざして

～平成16年度の歩み～

北海道造形教育連盟
委員長 冨田 泰

はじめに・・・・

毎年4月の第4土曜日に北海道造形教育連盟「地区委員総会」が開催されます。今年の4月24日の地区総会におきまして，委員長の任に就くことになりました。

永き歴史があり，その教育活動に多くの方々の称賛を受けている連盟です。その委員長の任に就く責務に戸惑いを感ずると共に身の引き締まる思いです。

連盟が創立され50年を迎えた平成12年に『50周年記念誌』が発刊されました。その中に創立当時（昭和26年）の教育等についての座談会内容が載せられています。

諸先輩の戦後の造形教育に対する熱意とその実践が分かり，たいへん強く感銘を受けるものです。今，その連盟の歩みから新たに学びを得て，連盟の研究の進展に努力したいと思います。

今年の全道大会は，第54回を迎えました。研究の柱を創立当時から支え，連盟の基礎を築いてきた旭川市教育研究会図工美術部会が開催します。今まで常に開催地の地域性を生かして研究討議が行われてきた全道大会です。旭川は，その地域性を発揮し，図工・美術教育のあるべき姿を追求し，その意義を謳い連盟の新しい歴史をまた刻まれることを確信するものです。

授業実践の交流を通して・・・・

平成13年度の『地区委員総会』で研究部が提案した研究主題「心豊かに未来に生きる造形教育」を基に，全国大会（札幌），14年度十勝帯広大会，15年度空知滝川大会が「人間づくり」という観点で開催され，大きな成果を上げました。授業実践を通して造形教育の本質を確かめ合い，検証する活動を推進し，図工・美術教育を『社会』に発信する「ねらい」も謳われています。また，研究部が15年度に実施した「北海道の子供の現状を捉えるためのアンケート」の結果からも確認し，そして，『発信していく造形教育』の必要性を提案し，『造形教育を柱とした教育の広がりと深まり』をめざしています。

研究主題を基に，実践交流を中心に大会を進めていますが，旭川大会を機会に全道18サークルが更に実践交流を深め，課題解決に臨みたいと思います。

さて，毎年行う『北海道教育美術展』の審査会は一つの絵画指導の研究・研修の機会でもあります。研究部提案の審査基準にかかわる学習会で，全道各地区から参加される会員の方々による検討・討議が行われます。絵画指導における種々の考えがある中で，北海道造形教育連盟の考え方や理念を広げていく機会でもあります。そのためにも各サークルから多くのご参加をいただき，学び合うよき機会として実施していきたいと思います。また，教育美術展の奨励賞作品は本部に保管され，貸し出しをしており，サークルや市町村図工美術協議会などの研修活動に活用されています。これからも，日常実践指導の糧として，ますます活用されますよう願っています。

13年度の全国大会（札幌）後に，道連盟の研究実践交流が広く深く行われていると，他都府県の方々から話を聞くことができました。広域の北海道でありながら，『サークルの連携と交流』のある理想の姿であることが伝わり大きな影響を与えているようです。教育現場の活動の価値は，連携と交流の中にあることを捉え，今まで以上に認識し合いたいものです。

この後の全道大会・・・

全道大会の開催地は，17年函館，18年札幌，19年釧路，20年石狩と平成20年まで決定しております。

全道5つのブロックでそれぞれ検討し決定されるのですが，開催希望サークルが多いということも伺っております。これは各サークルの日常実践の充実の賜物と言えましょう。

教育改革が語られ，新学習指導要領・学校週5日制などが完全施行され，多くの課題も生まれておりますが，全道のサークルの連携をより一層進め，求められる造形教育をめざす所存です。

16年度 役員・本部事務局員紹介

委員長	冨田 泰	（札幌市立八軒小長）
副委員長	及川 輝夫	（旭川市立東鷹栖中長）
副委員長	藤川 潔	（函館市立日吉ケ丘小長）
副委員長	土井 勝典	（江別市立江別第三小長）
副委員長	大井誠一郎	（別海町立別海中長）
副委員長	角力山 旭	（札幌市立常盤中長）
監査	枝広 健二	（岩見沢市立緑中長）
監査	森戸 春樹	（帯広市立豊成小長）
事務局長	今 裕子	（札幌市立澄川西小長）
会計部長	益村 豊	（札幌市立資生館小頭）
庶務部長	安木 尚博	（札幌市立幌南小）
研究部長	川島 正夫	（札幌市立幌南小）
事業部長	福島由紀子	（札幌市立桑園小）
広報部長	加藤 正幸	（札幌市立東光小）

造形教育の未来を志向して
～発信していく造形教育～

北海道造形教育連盟　本部研究部　研究部長
札幌市立幌南小学校　川　島　正　夫

1．「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」の結果から

昨年，全道各支部の協力を得て実施いたしました「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」では，私たちの予想とは大きく異なり，

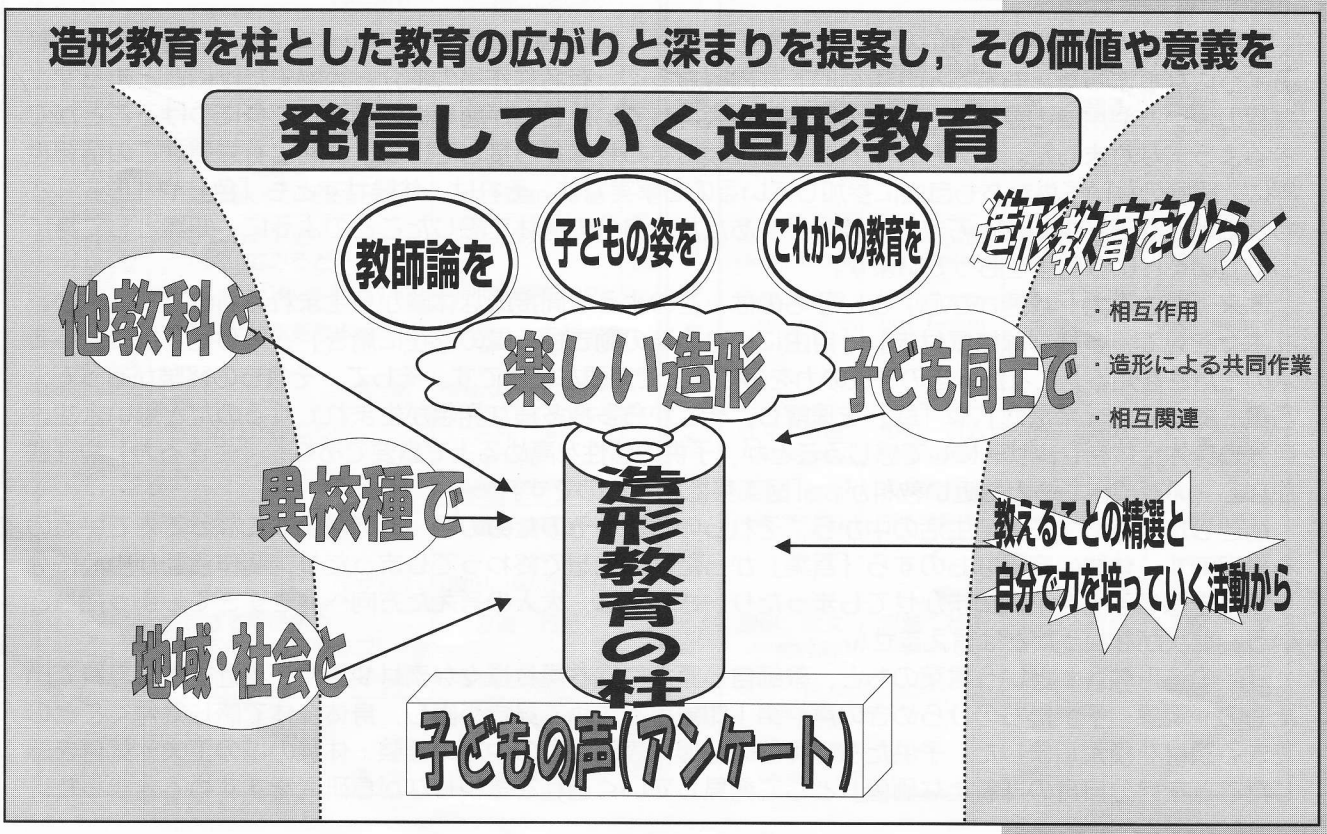
・予想以上に造形嫌いの子どもが増えている。
・学年が進むにつれて「思うようにできない」と感じている子供が増えてきている。
・「面倒だ」「やる気がしない」等，意欲や態度にかかわる否定的な回答が目立つ。
・教師の実態として，造形教育で刺激し伸ばす資質や能力を4観点のみと捉え，造形教育が人間形成に寄与する側面に意義を見い出してはいない。
・造形遊びで子供の資質や能力が伸びたと考えている教師が少ない・・・という側面が，見えてきました。

また，現在造形教育を取り巻く現状も，「子供の遊びの偏り」「基礎・基本の見直し」「社会や保護者に対する説明責任の重要性」「時数の削減」等，大きな偏りがあったり，求められているものが多種多様であったりしているといえます。ですから，私たちは＜今を生きる子どもと造形活動のつながり＞を深め，＜子供の造形活動の本質＞を探り，同時に，＜造形活動の広がりと可能性，これからの造形教育のあり方＞を探っていく取り組みが急務と考えます。

2．発信していく造形教育

私たちは，アンケートに表れた子どもの声を土台としながら，造形教育を柱とした教育の広がりと深まりを保護者や地域や教師に提案し，その価値や意義を発信していきたいと思います。そのために，連盟の財産である＜5つの扉＞を「題材や指導法等の教師論」「造形活動にひたる子どもの姿」「これからの造形教育」という視点を足場に吟味し，授業提案をしていきたいと思います。
私たちには，【つくるの大好き！描くの大好き！】という子供の姿を生み，造形教育を通して子どもを【すくすく育てる教師】や【新しい時代をひらく教育】のあり方を明確にしていく中で，より積極的に外部に向かって造形教育の価値や意義，素晴らしさを発信していく必要があるのではないでしょうか。

そして，造形活動にたっぷりと浸り，「あ，いいこと思いついた！」と，思いをふくらませていく子どもの姿の向こうにこそ，造形教育の未来があると考えます。



第54回 全道造形教育研究大会　旭川大会

大会テーマ　豊かに感じ　おもいをふくらませ　あらわす喜びを

研究主題　生の造形教育～身体で感じ，感性を磨くための出会いを求めて～

会期　2004．7．28（水）

会場　旭川市立神楽中学校

ご　挨　拶

「旭川大会への参加を，お待ちしています」

第54回全道造形教育研究大会　旭川大会
運営委員長　及　川　輝　夫

旭川市には,石狩川を始めたくさんの川と橋があります。中でも石狩川に架かる「旭橋」からの夕焼けと大雪連峰は絶景です。旭川はまた「彫刻の街」でもあり，買い物公園をはじめ多くの公園や橋に彫刻が飾られています。旭川大会では「豊かに感じ，おもいをふくらませ　あらわす喜びを」を大会テーマに「生（なま）の造形教育」の研究主題のもと，幼稚園～2授業，小学校～6授業，中学校～4授業の計12の授業を公開します。現在，部員を中心に日夜研究を重ねています。

皆さんを迎える会場の神楽中学校は，静かな住宅街にあります。近くに三浦綾子記念文学館と「氷点」の舞台となった見本林があります。大いに研究・議論を重ね，過去の大会に負けない熱い旭川の夏にしたいものです。各地から多くの皆さんの参加をいただき，ご指導を賜りたくご案内申し上げます。

研究主題について

情報化社会と言われるようになり，私たちの生活は，部屋にいながらボタン一つで様々な情報を得られるようになりました。もちろん「美術的」な内容も多く，有名な作品の紹介，人物史だけにとどまらず，材料の使い方や用語の意味など，自分で体験し会得していたことが簡単に知識として身につけることができるようになりました。大人が，それまでの経験とあわせながら接している，便利で有意義なこの情報世界に，経験のない子供たちも自由に参加しているのも事実です。それは，体験せずとも「色」や「形」「さわり心地」など子供にとって未知の情報が，あたかも自分の身体で感じたことのように，知識として身についていくという側面をもっています。

本来「生きる力」「豊かな心」というものは，このような間接的な体験から生まれるものでしょうか。「木々を見て，多様な緑に気付き」「自由にゆれる草の動きから風の存在に驚き」，そして「川に入って水の冷たさを知る」ことが本当の子供の力をのばす上で重要な経験です。そして，それらの経験があって，言葉・概念での「冷たさ」や「緑」を理解し，そこから多種多様な発想が生まれてくるのだと思います。自分の身体全体をセンサーにして感じることが，子供の感性を高める上で重要であり，「生きる力」や「豊かな心」の育成にもっとも近い教科が，「図工美術科」なのです。

前述したように，子供の生活の中から，それらの体験やそのための場・時間が少なくなってきているのも事実です。体験の容易なものすら「言葉」からだけの発想で終わってしまったり，制作活動が中心になり気付き感じる場を子供にまかせてしまったり，さらには，大人の考えた方向へ導きすぎてしまったりという，現状がなかったとは言えません。

「生の造形教育」という言葉のもと，教師自ら原点に立ち戻り様々な素材や用具，身近すぎて忘れていたものや現象，子供たちのひらめきの声や第１印象等を改めて見つめ直し，身体全体で感じ気付くことのできる題材を模索しました。子供たちの実態の把握，表現活動の中での経験・体験の場の工夫，気付き感じたことを自分自身の「新たな価値」として発見していく過程を重視しながら研究をすすめてきました。

この過程こそが，一人一人の感性を磨くために大切な瞬間でありそしてプロセスと押さえたからです。
私たちは「表現」と「鑑賞」という大きな領域のなかで，「出合い」「対話」「感じる」を視点にして，これまで話し合いやプレ研を進めてきました。どうぞ，これまでの実践の成果としてのすべての領域，授業をみていただき，ご指導ご鞭撻をいただければと思います。

大会日程

8:30	9:00	9:15	9:50	10:05	10:15	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受付	公開1	公開2	公開1	公開2	全体会 開会式	講演	昼食	研究討議 分科会	移動	閉会式 レセプション

公開授業・分科会

校種・学年		公開	題材名	授業者	分科会
幼稚園	年中①	1	わくわくタイム 〈表現〉	笠井 聡枝 土井 沙織 （旭川わかば幼稚園）	幼稚園
幼稚園	年長②	1	どきどき・わいわい えのぐらんど 〈表現〉	秋山 香奈 畠山貴美子 （旭川わかば幼稚園）	幼稚園
小学校	1年③	1	クモさんになって 〈造形遊び〉	薄葉 郷子 （旭川市立末広小学校）	表現Ⅰ
小学校	1・2年④	2	アレレ いしをつみあげていくと 〈造形遊び〉	佐藤 仁彦 （上富良野町立江幌小学校）	表現Ⅰ
小学校	5年⑤	1	ブラックライトの世界 〈造形遊び〉	澁谷 幹子 （旭川市立旭川小学校）	表現Ⅰ
小学校	2年⑥	1	あそびにおいでよ わたしの島へ 〈つくりたいものをつくる〉	児玉恵美子 （旭川市立朝日小学校）	表現Ⅱ
小学校	3年⑦	2	どこでもドアを 開いてみると… 〈つくりたいものをつくる〉	大山みのり （旭川市立陵雲小学校）	表現Ⅱ
小学校	6年⑧	2	あさひかわ彫刻散歩 〈鑑賞〉	泉 大吾 （教育大附属旭川小学校）	表現Ⅱ
中学校	1年⑨	1	木が語りかけるもの 〈工芸〉	大坪 卓司 （旭川市立神楽中学校）	表現
中学校	2年⑩	2	水の流れを視（み）る 〈デザイン〉	藤井真規子 （旭川市立緑が丘中学校）	表現
中学校	2年⑪	1	変容する版の魅力（コラグラフ） 〈絵画〉	渡邊 万紀 （旭川市立東明中学校）	表現
中学校	2年⑫	2	共有するまなざし 〈鑑賞〉	庄子 展弘 （旭川市立春光台中学校）	鑑賞

分科会名	提言者	助言者	司会者	運営・記録係
1 幼稚園	佐藤 公文（旭川・わかば幼）	古屋 栄隆（旭川・せつれい幼長）	目良佐都美（旭川・めいほう幼）	澤田石浩美（旭川・大谷さくら幼） 結柴左悦子（旭川・大雪幼）
2 小学校表現Ⅰ（造形遊び）	山口 貴大（当麻・当麻小） 正部川恵智子（旭川・高台小）	引地 俊夫（東神楽・志比内小長） 渡辺 盛二（旭川・正和小頭）	井山 和博（当麻・当麻中） 宮崎真理子（旭川・春光小）	澤田 克之（富良野・富良野東中） 高橋香奈子（旭川・末広北小）
3 小学校表現Ⅱ（絵や立体・つくりたいもの・鑑賞）	幸田 尚子（沼田・沼田小） 村住 久恵（旭川・北鎮小）	枝広 健二（岩見沢・緑中長） 加藤 隆（旭川・永山小頭）	中澤 孝仁（滝川・東小） 横川香代子（旭川・近文小）	熊本有未代（赤平・赤平中） 豊巻 絹子（旭川・東光小）
4 中学校表現	向井 正樹（札幌・あいの里東中） 西岡 裕英（附属旭川中）	寺嶋 文憲（札幌・東米里中長） 坂野 潤治（旭川・北門中長）	石川 早苗（札幌・宮の丘中） 中島 圭介（旭川・東光中）	阿部 時彦（札幌・八軒中） 畠山 勝（旭川・神居東中）
5 中学校鑑賞	佐々木善憲（附属函館中） 成田 慎司（旭川・緑が丘中）	中村 吉秀（函館・北中頭） 川合 薫（旭川・桜岡中頭）	赤坂 嚴男（鹿部・鹿部中） 平野 雅拡（旭川・雨紛中）	佐々木壮一（函館・的場中） 伊藤 賢二（旭川・広陵中）
6 高校	西田 武文（旭川藤女子高） 佐藤 佳人（旭川工業高） 齋藤 健昭（旭川東高）	宮崎 和夫（旭川東栄高）	山口 幸彦（旭川南高） 水元 夕佳（旭川北高）	工藤 亨（旭川西高） 寺腰 精司（旭川凌雲高）

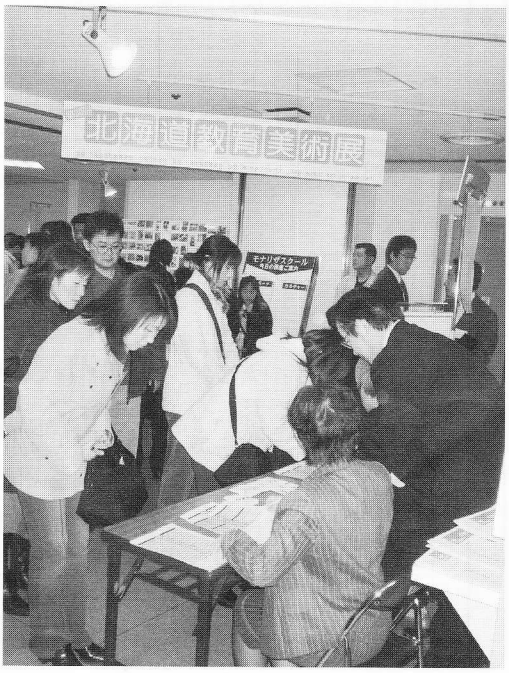
「望ましい絵」に関する共通理解を図るために

北海道教育美術展審査・会場風景

毎年，全道各地の教室から生まれる数多くの作品が応募される教育美術展は，昨年30回展を終えました。研究部を中心に見直しの図られている美術展審査への取り組みは，さまざま角度から行われています。奨励賞の作品に対する寸評の分析，模擬審査形式による学習会，審査の観点や基準・方法に関する提案と検討など1年を通して，「望ましい絵」に対する共通理解を図る新しい試みが試行され，会員の作品観，造形観にかかわる学習の機会となっています。12月の審査会は，良い学習の機会だと考え，全道各地から参加してくださる先生たちが増えています。

個々の作品に対して，見方や考え方が出され，真剣にじっくりと検討される審査会。模擬審査での考えや基準などが，実際の作品に対して生かされている。

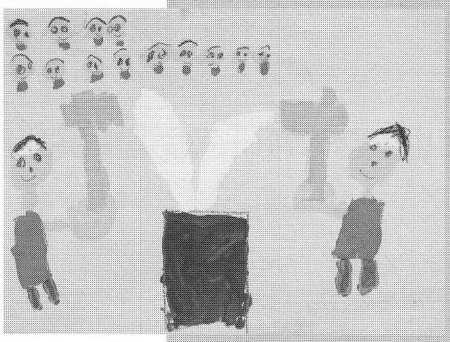
校種別に，地方ごと、学年ごとに時間をかけ検討される



大勢の方々が訪れ，作品に対する質問も数多く寄せられる美術展会場

第31回
北海道教育美術展

掲載作品は第30回奨励作品です。



幼稚園　猪俣　塁「おもちつき」
おもちの伸びる様子やそれを見ている人など細かな所までよく描かれています。もちつきのリズムまで伝わってきそうです。

応募要綱概要

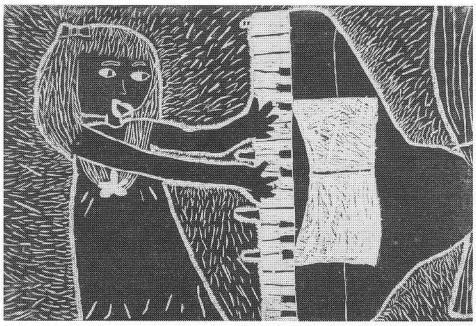
後日，要綱発送ですが，準備の都合を考え概要をいち早くお知らせします。

対　象

・保育園・幼稚園・小学校・中学校に在籍する園児および児童

応募規定

・絵画，版画，デザイン等の作品とし，学校（園）を窓口として応募する。
・大きさは4切り。4つ切り以下の作品は，4つ切り大の台紙に貼ること。（中学校については，8つ切り大の台紙も可）
・1人1点の出品とする。
・作品の裏に応募票を貼る。（応募票をコピーして使用）
・応募総数を学年別出品一覧表にまとめて添付する。
・作品は学年ごとに重ね，一つにまとめて，おもてに「教育美術展作品」と記載する。



小4　小林　奈津美「ピアノ発表会」
ていねいな彫りが美しい白黒画面になりました。刷り方もしっかりしています。

絵画・デザイン等で様々の材料での表現が見られますが，展示・保管上次の規定をお守りください。
＊積み重ねてもつぶれない，かさばらない
＊接着が強固ではがれない
＊画鋲で展示が可能な重量

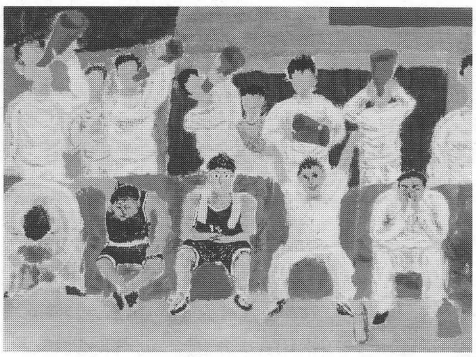
送付先

〒063－0844
札幌市西区八軒4条1丁目
札幌市立八軒小学校
北海道教育美術展係宛

小5　田丸　恵理「庭の金魚」
庭の片隅で気持ちよさそうに泳ぐ金魚を確かな観察と美しい色彩で仕上げています。

締　切

・平成16年12月13日(月)まで期日厳守のこと



中2　佐藤　貴丸「我が校のバスケ部応援団」
心配そうなベンチと大声をあげて応援する姿が対照的でその場の雰囲気が伝わってきます。

主催　**北海道造形教育連盟**
　　北海道新聞社
後援　**北海道教育委員会**
協賛　**さっぽろ東急百貨店**
　　株式会社サクラクレパス

問い合わせ先

札幌市立月寒小学校　**池田　武彦**
TEL 011－851－9383　FAX 011－851－2358

地区サークル近況だより

苫小牧市教育研究会造形部会の活動

造形活動部会幹事長　宮　下　肇　彰
（苫小牧市立拓勇小）

造形部会は『つくり出す喜びを味わい，自由な創造のある授業をめざして』というテーマのもと，市教研の年6回の部会（5，7，9，10，11，12月）の場を中心に，69名の部会員で活動を進めています。

具体的な活動としては，日常の実践活動に役立つような内容で，絵画・工芸・粘土などの実技講習を開き，実際に作品作りに取り組むことによって得られる知識や技術の向上を図っています。また，レポートや作品を使って，理論研究や実践交流を行い，各校の取り組みについて交流を深めてきています。

今後の活動では，よりよい授業作りを目指して，小中の研究授業に取り組み，研究を深めていく予定です。

また，定例の部会とは別に，地域企画展である『紙フェスティバル』（9月12日）への参加や，教育美術展（10月29日～31日）の開催を通し，造形活動の更なる広がりと活発化に努力していきたいと思っています。

札幌　函館　渡島　胆振　上川　旭川
石狩　室蘭
空知　苫小牧
留萌　檜山
後志　根室　オホーツク　釧路　帯広　十勝

帯広市教育研究会　図工・美術部会「造形活動の発信基地をめざして」

帯広市立第一中学校　澤　田　佳　子

ここ数年の図工・美術の授業時数削減など，教育活動における造形教育が危機的状況にある中，「豊かな感性をはぐくむ造形教育」を研究主題とし，授業研究・作品交流・実技研修・美術館鑑賞・造形展を軸にして活動している。

70名を超える部会員のほとんどが指導上の悩みを抱えた先生方であり，年3回の作品交流会は，興味深い実践や試行錯誤の状況など，本音が飛び交う熱い交流会となっている。

毎回，"おみやげ"（図工・美術に関する様々な情報）が得られ，造形活動を媒体として先生方のコミュニケーションの輪が広がっていく。指導者の専門性や個々の感性を問われる教科だけに，図工・美術部会の担う役割は大きい。

心の豊かさが求められる現代において，子供たちの感性をはぐくみ，図工・美術活動の火を消すまいと日々情熱を傾けて指導されている先生方の期待に応えるよう，常に新鮮な情報をキャッチし，小・中の垣根を越えて気軽に語り合い，学び合える環境設定が重要と考える。さらに，"造形活動の発信基地"として，小中合同造形展の開催を通じて，保護者だけでなく地域・社会に向けて，造形活動の重要性を強くアピールしていきたい。

石狩造形教育連盟「粛々と着実に」

石狩市立花川北中学校　墓　田　充　泰

石狩には研究組織として「石狩教育研究会」があり，ほんとんどの教職員が加入し，教科研究や課題別の研究について，各市町村の実践を基に研究交流をしています。しかし，これらの活動は，教職員や学校内の範囲での研究活動が中心で，一般の人の目に触れることはありません。従って，我が石狩造形教育連盟としては，石狩管内の美術教育の現状を広く地域・保護者に理解してもらうことを目的とし，教職員の研修活動，そして全道美術展への協力に主眼をおいて活動しています。会員のほとんどが「石教研図工美術部会」の会員であり，「石造連と二足の草鞋」を履いての活動となっています。

メインの活動は「石狩管内教育美術展」の開催です。期間中は，家族連れで鑑賞に来て，記念写真を撮ったり，お爺ちゃんお婆ちゃんが孫の作品を見に来たり，通りがかりの高校生や買い物帰りのお母さん，通勤・通学途中の人たちなど，毎回約800名近くが訪れています。この活動も定着し，開催を楽しみにしてくれている人が大勢います。

会員一人一人が，子供の感性を豊かにするとともに，家族の笑顔の見える活動をめざして，これからも着実に歩み続けていきたいと考えています。

あとがき

第118号をお届けしました。お忙しい中，原稿をお寄せくださった皆様に厚くお礼申し上げます。第115号から始めた「地区サークル近況だより」は，まだ1年ほどですが，紙面を通しての情報交流として利用いただけるようになりました。各地で現在取り組んでいる活動はじめ，授業づくりへの疑問なども年齢を問わず掲載したいと考えます。今後もどしどしお寄せいただきたいと思います。また，造形連盟広報へのご意見・ご希望もお寄せください。

造形教育連盟広報部　（中山龍男，三井　哲，山室ゆかり，冨波　修，東　尚典，平井　歩，松本和彦，伊藤聡美，加藤正幸）